創作ダンスの指導に関する研究
—指導助言と学生活動の様相と変容—

奥野　知加

Ⅰはじめに

平成14年度第38回ダンス研究発表会（東京女子体育大学・同短期大学ダンス部）において創作作品を発表するにあたり、同ダンス部では同年6月4日よりグループ分けをし創作の準備にかかった。

作品は傾向が偏らないように作風を以下の3種類に予め特定しておいた。

(A) 日本的なもの
(B) 不思議な感じのもの
(C) 情熱的なもの

その中で学生は創作したいものを主体的に選び、グループ化していく方法をとった。従ってグループには、作品に対して同一志向と創作意欲のある者が集まり（4～6名）、学年も2年生（学部・保体・児教）と学部3年生の混合で編成された。

本研究は作風（C）「情熱的なもの」から作品「RUBY」を研究題材にしたものである。その作品はグループの共通理解のもとに創作を開始したが、中盤作品テーマと学生の指向が遊離し創作が難行、その後指導者の助言と指導計画のもとに軌道修正をし、当初のねらい通りの成果を挙げるに至った。

この事例報告は、作品の中間発表（学生の手で一応の完成をみるまで）から発表会当日までのプロセスを「指導者の活動・助言」と「学生の活動・反応」の観点から検討を加え、成果としての作品の変化を「課題と作品の変容」として観察したものである。

指導者の指導助言と学生活動の様相と変容をみることで、創作ダンスにおける適切な指導助言や活動の有効なてだてを構築するものである。

Ⅱ作品編成と内容及び創作過程

作品と作品完成までのプロセスを明確にするために以下の事柄を確認し、資料・調査を加えて「指導助言と学生活動の様相と変容」としてまとめてみた。

1）対象者

全員本学ダンス部員で、体育学部2年1名、短期大学児童教育学科2年1名、体育学部3年2名が創作及び発表者であるが、発表者は他に体育学部1年14名が含まれ、全18名であった。

2）作品について

作品「RUBY」は、平成14年度第38回ダンス研究発表会において発表した作品である。

3）創作期間及び練習時間

創作期間は、2002（平成14）年6月4日から9月6日までであるが、創作及び練習の内容によって以下の5段階に区分した。

①初期の段階　（6月4日～7月17日）
②中期の段階　（8月8日～8月20日）
③まとめの段階（8月21日～8月29日）
④仕上げの段階（8月30日～9月6日）
⑤発表の段階　（9月7日）

練習時間

①初期の段階　（30分～1時間）
②中期の段階　（30分～3時間30分）
③まとめの段階（3時間）
④仕上げの段階（4時間）
⑤発表の段階　（2時間）

以上の事柄に加えて、資料収集及び創作者に対する内省調査をすることにより、更に創作過程の詳細を明確にした。

4）資料

以下に挙げた資料は、各段階における作品の経過を収録したビデオ、学生の取り組みが記録されている創作ノート、また発表時の観客のアンケート及び中間発表時の部員相互の感想文である。これらを各段階における作品と学生の様相と変容をみる手掛かりとした。

①作品の収録ビデオ
②創作ノート
③発表会におけるアンケート結果
④中間発表時の感想文

5）創作者の内省記録

各段階における創作者の心情を聞き取り調査したもので、作品発表後に個別に行なったものである。

6）指導助言と学生活動の様相と変容

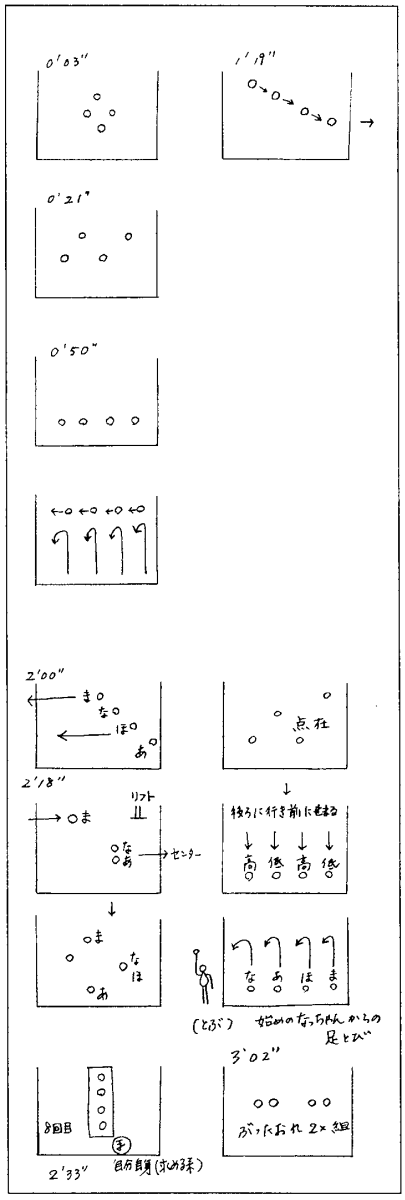
これまでの確認事項や資料・調査事項を、各段階ごとに、以下の観点からまとめ、「全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容」として表に示した。(表1－1－(1)～表5)

①「指導者の活動・助言」
②「学生の活動・反応」
③「課題と作品の変容」

表1－1－（1）　全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容（初期の段階）

指導者の活動・助言	学生の活動・反応	課題と作品の変容
一般練習(6／4～7／16) (練習時間30分～60分) グループメンバー決定 指導助言は中間発表までなし	〈タイトル〉「ルビー」に決定 〈テーマ〉　ルビーの輝きを女性的に情熱的に表現していく 【内省記録】 ・技術を見せたい ・踊りを見せたい ・女性的な感じを見せたい ・物語性をなくす 〈動きづくり〉 ・使用音楽をかけながら即興的に動く中で作品に相応しい動きを見つけていく 〈構成〉 ・自分たちの好きな構成を試していく(見る人、踊る人にわかれ) 【内省記録】 ・動きがどんどん出てはかどった ・音楽に合わせスムーズに動けた ・動きやすかった ・ターン(回転)を多く取り入れた ・気持ち良く動くことができた ・音楽のイメージでどんどん進んだ 〈タイトル〉「ルベウス」に変更 ＊ルベウスとはルビーのラテン語読み 【内省記録】 ・作品の内容や表現が直接的なのでタイトルを少し難解なものにした	・音楽……「バットマンオーバチュアー」 「ファイティングデーモン」 ・衣装……赤いレース生地を使用 デザイン未定 ・課題……宝石の輝きを出すため ターン(回転)を多くとりいれた

表１－１－（２）　全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容（初期の段階）

指導者の活動・助言	学生の活動・反応	課題と作品の変容
中間発表　第1回（7／17） **講評** 1. 一番表わしたいことが何なのか、まだみえていない 2. 他の作品とモチーフが似ているので、もうひと工夫を 3. タイトルがわかりづらい 4. 音楽が不適切ではないか 5. 衣装の素材はいいが、デザインに工夫がたりない	・作品発表 〈作品感想〉発表後に交わされる学生の意見交換、部員全員で （良い点）1. 4人の呼吸があっている（4） 2. 曲とモチーフがあっている（3） 3. 衣装が良い（3） 4. これからが楽しみ（3） 5. 曲とモチーフが印象的（2） 6. 曲が頭に残る 7. 構成がおもしろい 8. 動きが難しいのに良く揃っている 9. 動きがおもしろい 10. ドラマを感じる （改善点）1. 構成をもっと工夫して（3） 2. 動きがはやくてばらばらにみえる 3. タイトルと曲があっていない 4. 情熱をもっとだしてほしい 5. 衣装のデザインの工夫を 6. 動きをもっと工夫して 7. リズムにに合わせてるだけでなくもっと激しい部分をつくって 8. 何を伝えたいかわからない 9. 見る人にわかる内容にして 10. 以前見た作品に似ている 11. 途中の曲がわりが重要なのにあまり変わっていない **【内省記録】** ・気持ち良く踊ることができている ・とにかくこのまま最後まで創っていく ・このままでいい ・作品に愛着を感じる ・作品のでだし部分は気に入っている ・タイトルは変えたい	〈創作ノート〉1 

＊〈創作ノート〉1・2・3及び〈デザイン画〉は、学生の創作過程における様々な記録の一部である。本表ではそれらをそのまま記載しすることで、その場面における学生の様相を伝えようとするものである。

表１－２－（１）　全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容（中期の段階）

指導者の活動・助言	学生の活動・反応	課題と作品の変容
学内合宿（8／8） **一般練習（8／12）**	〈タイトル〉・中間発表の講評よりタイトルを「ルビー」にもどす 〈テーマ〉・真紅の光を放つ石に秘められたパワーそれは情熱 ・宝石言葉……情熱 ・真紅の光を放つ石の力を手に入れる ・パワーストーン 【内省記録】・とにかく最後まで創り上げる ・パワーストーンであることを表わしていく ・構成を工夫する	・音楽……変わらず ・衣装……同じレース生地でデザイン未定 ・小道具……ペンライトを使用 ・課題……パワーストーンをキーワードとし創作を進めていく
	〈動きづくり〉・これまでと同様に即興で動く中で作品に相応しいものをみつけていく ・ペンライトを活かせる動きを考えた 〈構成〉・ペンライトが見える構成を意識した（見る人、踊る人に別れ） 【内省記録】・動きがどんどん出ているのでこのまま最後まで創ることに専念した ・ペンライトはいいアイデアだと思った	・課題……・宝石の輝きを出すために各自がペンライトをもって踊ってみる ・最後までつながったが構成の変化や動きの見直しが必要である ・全体作品時間3分43秒 ・課題……イメージ中心に動き構成を見直す キーワード／女性らしさ 情熱 赤
作品合宿（8／16） **一般練習（8／19）**	〈動きづくり〉・踊り込み中心に進めた 〈構成〉・4人なのでいろいろな試をしながらつめていった 〈照明〉・照明案を作成 【内省記録】・これまでは音楽中心の動きや構成づくりであったが、この頃からイメージを大切に見直していった	・デザイン決定

表１－２－（２）　全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容（中期の段階）

指導者の活動・助言	学生の活動・反応	課題と作品の変容
中間発表 第2回（8／20） 講評 1. 何を表わしたいのか解らない。もう一度しっかり話し合って 2. 掴み所がない 3. 言いたいことをしぼり込んで 4. 盛り上がりの場面をもっと見せて 5. タイトルはルビーかパワーストーンのどちらかで良いのでは 6. パワーが感じられない。女性らしいパワーがほしい 7. ペンライトの意味が解らない 8. ペンライトの使い方をもっと工夫して 9. 赤い衣装に赤いライトでつまらない 10. 音の使い方に疑問を感じる 11. 音がやはり不適切ではないか 12. 大人数の作品にしてパワーを表してはどうか	〈タイトル〉「パワーストーン」～RUBY～ 〈作品感想〉（中間発表後に交わされる学生の意見交換、当日の部員全員によるもの） （良い点）1. ペンライトがルビーのようだ（7） 2. 衣装が良い（5） 3. 作品が女性らしくなった（3） 4. 照明がつくのが楽しみ（3） 5. 4人の動きがあっている 6. 出だし部分が印象的 7. 動きの技術が高い 8. 動きが柔らかい （改善点）1. 見せ場（盛り上がり）をつくって（2） 2. ペンライトはもっと大きく（2） 3. 衣装がはだけると良くない（2） 4. 構成をもっと工夫してみて 5. 表情をもっと出してほしい 6. 動きをもっと工夫して 7. ペンライトでパワーはでない 8. 何を伝えたいか分からない 9. もっとルビーのパワーがほしい 10. もっと大人っぽく演出して 11. 途中の曲がわりが重要なのにあまり変わっていない 12. 動きのテンポが一定 13. 曲が単調 14. 動きの予測ができる 15. 題名の意味をもっと追求して 16. ユニゾンが多すぎる 17. 動きがせわしない 18. ペンライトがずれて見苦しい 【内省記録】・このままで良いのか不安になる ・音はこのままでいいと思う ・4人のままでいきたい ・女性らしいイメージを全面にだしたい	〈デザイン画〉・衣装

表１－３　全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容（まとめの段階）

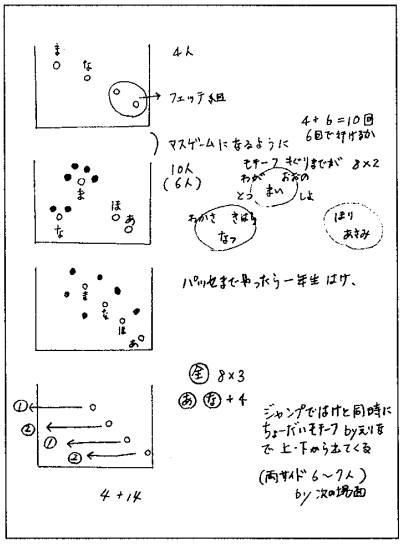
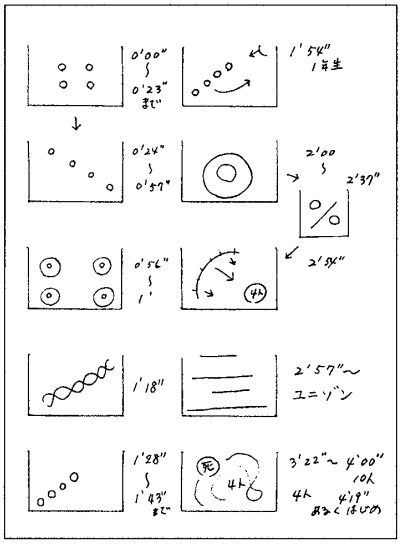
指導者の活動・助言	学生の活動・反応	課題と作品の変容
一般練習（8／21） （練習時間3時間） **照明合わせ（8／29）** 実質的な作品完成をみる時であるが、本作品についてはテーマとの隔たりが人数を増員しても埋められず、テーマを変えるか作品を根本的に変えていかなければ創作ダンスとしての価値の見いだせない作品となる嫌いがある ↓ 直接グループ全員に上記を伝える	・自分たちの作品をビデオで確認 〈構成〉　・作品の山場で1年生が加わる 　・マスゲーム的に展開していく 〈動き〉　・1年生の動きを考える 　・始まりと終わりの部分を検討 　・動きの計算をし高低がでるように 〈小道具〉・全員（18名）ペンライトを持って迫力をだしたい 【内省記録】・新たな気持ちで頑張るぞ 　・スケールの大きいものにしていく 〈タイトル〉　・「RUBY」に決定、当初つけたものにもどる 【内省記録】・不安、納得できない 　・パニックになった 　・先生の指摘が頭に入らない 　・時間がない 　・焦る	課題……・盛り上がり部分を大人数にしてみる（1年生14名） 　・ジャズダンスにならないようにする 　・単調な音だが動きは大きく動く 　・群舞としての見応えをどう出していくか 〈創作ノート〉2 

表１－４　全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容（仕上げの段階）

指導者の活動・助言	学生の活動・反応	課題と作品の変容
助言（8／30） （練習時間4時間） ①テーマを変更する場合 ・使用音楽の題名からテーマを決め曲の意味やイメージを確認した上で現在ある作品をあまり修正せず生かしていく方法 ②音楽を変更する場合 ・作品本来のタイトルやテーマに戻り、より相応しい音楽に変更。それに沿って作品を手直ししていく方法 **助言** ②における音楽を提示 （a）クラシック （b）アルゼンチンタンゴ 以上2種類の内から相応しいものを選び進めていってはどうか、その際にテーマ、タイトルとの関連を重視すること、以前の作品の良いところを残しながら重厚な感じや歴史感や民族性なども醸し出せると良い。また、4人と大人数とのコントラストや大群舞の迫力も活かせるかどうかなど考慮し決定すること。そのほかペンライトでルビーの輝きをだすのではなく、まづは身体の動きで表現することが先決であり、ペンライトを持つことで動きが制限されることの方が懸念される	【内省記録】 →①の場合……これまで音楽を主導に動きを構築してきたので音楽のイメージには沿った作品であり、修正もそれほど大変な作業ではないと思われるが、創作の基盤であるテーマを覆すということに抵抗を感じる 【内省記録】 →②の場合……一からのスタートに近いものがあり、これまでの積み重ねが無駄であったのかという無力感に苛まれる 課題（①の場合）より 仮タイトル「バットマンオーバチュア」 テーマ（悪との戦い）の視点で収録ビデオをみてみる ↓ 【内省記録】 ・ジャズダンス的な雰囲気が濃厚 ・作品に深みが感じられない ・自分たちが目指していたものとは全く異なるものとなる ↓ ①を却下 課題（②の場合）と助言より ・（b）のアルゼンチンタンゴの曲であれば現在の動きや構成が生かせることができそうである ・（b）は曲に起伏があり盛り上がりや深みがあり創作しやすいと思った ・（b）ならば大人数群舞にも対応できる迫力がある	課題（①の場合） →このまま踊り込みにはいり、踊り込む中で音楽のイメージを更に明確なものにして行き、作品の表情として表現できれば完成であるが、予想される反応としてはジャズダンス作品と思われる可能性がある 課題（②の場合） →今ある動きを生かしたとしても18名の大人数を動かすには、しっかりとした全体構成や見通しが必要である。またこれから音楽を探すのでは時間的に難しいものがある。 〈決定〉 （b）の曲でタイトルやテーマを変えずに現在ある動きや構成を活かして作品の軌道修正を行なうことに決定 ↓ 課題　・曲相を反映した全体構成にする 　・作品の深みや重みを意識する 　・盛り上がりをつくり見せ場とする 　・今までの動き構成を生かす 　・人数のコントラストをつくる

表１－５　全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容（発表の段階）

指導者の活動・助言	学生の活動・反応	課題と作品の変容
発表会当日（9／7） **助言** 作品に入り込んでしっかり踊って 大きく堂々と自信をもって	・場当たり……位置取りを確認 ・リハーサル……本番通りに行なう 【内省記録】・間違えずに踊ることで精一杯 ・緊張の連続 ・頑張った ・終わったときの拍手に安心した 〈発表会観客の感想〉（当日のアンケートより） （良かった点）　1. 照明が美しかった（6） 2. 女性らしい情熱を感じた（5） 3. 動きにキレがあった（5） 4. 衣装が良い（3） 5. 宝石（ルビー）みたいだった（3） 6. カッコいい（3） 7. 出だしが良い（3） 8. 動きが奇麗（3） 9. 4人の存在感があった（2） 10. 赤が良かった（2） 11. 神秘的で良かった（2） 12. 動きが揃っていた(群舞) 13. 空間の工夫やリフトが良かった 14. モダンでいい 15. すごく良かった 16. 技術が高い 17. とても上品でルビーがイメージできた 18. 迫力があった 19. 終わりが良い （以上45回答） （良くなかった点）1. 最後に余韻がほしい 2. 空間の工夫を 3. もう少し色気がほしい 4. もう少し動きを揃えて 5. 情熱が足りない 6. 後半もっと盛り上げて 7. もっと強さがほしい 8. 4人でやってほしかった 9. 中盤あきる 10. 下手に偏っていた （以上10回答）	〈創作ノート〉3 

Ⅲ「気づき」「調整」「交流」の観点でみる学生活動の様相と変容

「全プロセスにおける指導助言と学生活動の様相と変容」表１－１－（1）～5に基づき、指導助言に対する学生の活動・反応を「気づき」「調整」「交流」の観点からまとめ「各段階における課題とその反応」（表２－１～５）に示した。これは、指導者の指導助言を、学生はどう受けとめ、そこからどう課題を見いだし（気づき）互いに問題解決（調整）に臨んだのか。また取り組む意欲や協力体制（交流）をみていくことで、学生の活動内容をより明確に把握しようとするものである。そしてその時点での課題到達度と残された課題を明らかにすることで、指導助言のフィードバックについて見極め、適正な指導助言であったか否かの検討をしていくてだてとした。

１）初期の段階

作品「RUBY」は情熱的な作風を希望した学生４名の創作作品で、テーマの決定から中間発表までの初期の段階表１－１－（1），（2）及び表２－１によると、６月４日のグループメンバーが決定した時点で「タイトル」・「テーマ」・「音楽」・「衣装」ともに速やかに決まり、すぐに動きづくりに取りかかっていたことが

表２－１　各段階における課題とその反応（初期の段階）

日付	指導助言	学生の活動・反応			課題の到達度	残された課題
		気づき	調整	交流		
6/4	この時点で指導者は指導助言せず(第1回中間発表まで)					
7/17	作品の講評として助言 1.表わしたいことが見えない 2.他の作品とモチーフが似ている 3.タイトルが解らない 4.音楽が不適切 5.衣装デザインにひと工夫を	・この時点での気づきで明確なのは助言3のタイトルに関してのみで内省記録に「タイトルは変えたい」とある			・5項目の課題に対し1項目のみ対応が見られるが、それも気づきのみで取り組みをしていない	・助言1～5の全て解決していない ・3以外は対策も立てられていない

わかる。この時点での４人の共通意識は以下のようであった。

・　技術をみせたい
・　踊りをみせたい
・　女性的な感じをだしたい
・　物語性をなくす

動きや構成も音楽に合わせて順調に創っていたことがわかる。この段階において指導者による助言や指導は一切行なわれていない。このことは、学生の自由な発想と自主的な取り組みを重視する指導方針によるもので、学生の手で一応の完成をみる中間発表（第１回）まで続けられる。従って指導助言は中間発表時の作品講評からとなる。この時点での学生の活動・反応は表２－１が示すように、５項目の指導助言（講評）に対して１項目（3，タイトルが解らない）に気づき、反応を示しているだけで、非常に乏しい活動・反応であった。この時点での内省記録は以下のようであった。

・　気持ち良く踊ることができている
・　このまま最後まで創っていく
・　このままでいい
・　作品に愛着を感じる

これらより、自分たちのこれまでの進め方と作品を肯定し、今後も変わらず進めたい意がうかがわれる。従ってこの段階における指導助言に対しては、殆ど気づきもなく自分たちの課題としても受けとめていないことから、有効であったとは言いがたい。

2）中期の段階

この段階ではタイトル、テーマを改め以下のことを念頭に進めている。

・　作品を最後まで創り上げること
・　パワーストーンを表わすこと
・　構成を工夫する

動きづくりはこれまで同様、音楽のイメージから動きを見つける方法であるが、ペンライトを使用することから、動きや構成もそれを生かすことを意識していることが分かる。また、表２－２の（8／16）「気づき」「調整」より、作品を最後まで創った後に見直し、その際にイメージ中心に行なったとある。またこの時、衣装デザインが決められている。これらより、助言１「表わしたいことがみえない」と助言５「衣装デザインにひと工夫を」について課題として取り組んでいることが分かる。「交流」に関しては、全員が協力して最後まで創ることや、動き・構成をお互いに見せ合う、などがみられる。しかしそれらは指導助言に対する直接的な活動とは言いがたい。

以上、これまでの活動の成果や課題到達度、が第２回の中間発表で問われることとなる。それについては表１－２－（2）の講評・作品感想にみることができるが、それによると講評（指導助言）には、作品のテーマに関わる助言が多く、他に小道具や音楽に対

表２－２　各段階における課題とその反応（中期の段階）

日付	指導助言	学生の活動・反応			課題の到達度	残された課題
		気づき	調整	交流		
8/8	前回の助言1～5を継続している		・タイトルを「ルビー」に変更する	・全員が協力して最後まで創ってしまうことに集中 ・動き、構成ともにお互いに見せ合って進めていく	・タイトル以外は達成されていない ・最後まで創ることを課題として取り組んでいく	1.表わしたいことがみえない 2.他の作品とモチーフが似ている 4.音楽が不適切 5.衣装デザインにひと工夫を 以上についてはいずれも未解決である
8/16		・最後まで作品を創り見直していく際にイメージを中心におこなった	・デザインを決めた		・助言1と5に関しての対策が講じられている	
8/20	作品講評としての助言（これまでの5つの助言以外のもの） 6.盛り上がりの場面を創って 7.タイトルはまだ良くない 8.ペンライトの意味が解らない 9.ペンライトの使い方が良くない 10.大人数の作品にしてはどうか	・作品に対する不安を感じはじめる ・女性らしいイメージを全面に出してはどうか	・タイトルを「パワーストーン」～RUBY～に変更		・助言1に対して「女性らしいイメージを全面に出していく」という対策を講じているが実行はされていない	・助言1～4及び助言6～10について未解決のまま

する指摘などがあり全部で12項目（第1回目は5項目）に及んだ。学生間での作品感想においても改善点に関する指摘が18項目（第1回目は11項目）あった。これは第1回中間発表を大きく上回るもので、第1回目と同じ指摘もあり、これまでの課題到達度の低さを示している。この中期の段階は、作品を最後まで創ることに終始し、それまでの指導助言を課題として明確に気づき、調整することなく進めており、初期の段階と同様、指導助言は効果を発揮していないこととなる。

この中間発表後、創作している学生は作品に対する不安を感じ、作品のイメージに関して考えだしている。（表２－２「気づき」）

３）まとめの段階

この段階で学生は、講評・作品感想と共にVTRを見ながら作品を再検討している。ここで新たな課題を発見し、以下のことについて取り組むこととしていた。

- 盛り上がり部分を大人数にしてみる
- ジャズダンスにならないようにする
- 単調な音だが動きは大きく動く
- 群舞としての見応えをどうだしていくか

実際にこの段階で、作品の山場で1年生14名を動員し、構成もマスゲーム的な展開にし、動きも1年生の部分を加え、高低変化を考えるなど課題に取り組んでいることが表１－３よりみることができる。ま

表２－３　各段階における課題とその反応（まとめの段階）

日付	指導助言	学生の活動・反応			課題の到達度	残された課題
		気づき	調整	交流		
8/21 ～ /28	前回の助言１～４および助言６～１０を継続している	・盛り上がり部分を大人数にしたい ・ジャズダンスにならないようにする ・単調な音だが動きは大きく動く ・群舞として見応えのあるものにしたい	・作品のビデオを見る ・１年生１４名を投入 ・全員（１８名）ペンライトを持って踊る ・見応えのある群舞をためして創る ・単調な音楽に流されず大きく動く練習をする	・４人が分担して１年生を教える ・タイトルも決定し新たな気持ちで頑張る	・作品の山場で大人数にしマスゲーム的に展開することで迫力を出した ・群舞の高低をつけて迫力をだした ・新たに加わった１４名の動きを考えた ・タイトルを「ＲＵＢＹ」に決定	「表わしたいものが見えてこない」「音楽が不適切」以上についてはいずれも未解決である
8/29	助言 いまだに作品テーマが明確にならず以下の提言をした ①テーマを変更 ②音楽を変更	・不安、納得がいかない ・時間がない ・先生の指摘が頭にはいらない	・作品のビデオを見る			

た、表２－３の「気づき」「調整」「交流」についても活発な動きが見られ、「タイトルも決定し新たな気持ちで頑張る」との意欲が感じられる。 課題の到達度に関しては、指導助言の4，5，6，7，8，12（表１－２－(2)講評）について対策が講じられ、問題解決に臨んでいることがわかる。しかしここでの残された課題が助言1，2，3に相当する「表わしたいものが何なのか分からない」と、助言10，11に相当する「音楽が不適切」と、助言9の「赤い衣装と赤いライトでつまらない」であり、それらは作品の柱とも言うべき重要な要素といえるものであるが、まだ未解決のまま進行していたこととなる。しかし、全体としては大きな転機を迎え、新しい目的に向かって取り組んでいる様子が表１－３の内省記録、「新たな気持ちで頑張る」「スケールの大きいものにしていく」よりわかる。この段階における指導助言は課題として受けとめられ、積極的に取り組まれていることがわかったが、同時にVTR視聴の効果も考えられる。

4）仕上げの段階

改良した作品を照明合わせ（8月29日）で発表したが依然として作品のテーマが明確に浮き彫りにならず、指導助言で再度そのことを指摘したが、表１－３の照明合せ時の内省記録は以下のようであり、相当追い込まれている学生の様子がうかがえる。

- 不安、納得できない
- パニックになった
- 指摘が頭に入らない
- 時間がない
- 焦る

ここで指導者は、学生の心理状態や作品の到達度、更には残された時間などを考慮し、完成へ速やかに

表２－４　各段階における課題とその反応（仕上げの段階）

日付	指導助言	学生の活動・反応			課題の到達度	残された課題
		気づき	調整	交流		
8/30 ～ 9/6	前回の提言を継続 ①テーマを変更 ②音楽を変更 いずれかに決め作品を完成させるよう促す	・テーマを変えるには抵抗がある ・音楽を変えるといちからやり直しになる ・音楽を探す時間がない （ビデオを見て） ・ジャズダンス的なかんじがする ・作品に深みがない	・作品ビデオを見る ・作品をなるだけ客観視してみる	・4人で話し合う意見を出し合う		
	音楽を2種類（2曲）提案し検討させる (a)クラシック (b)アルゼンチンタンゴ 選ぶ観点 1.テーマとの整合性 2.群舞が生かせる 3.重厚な感じがだせる 4.その他　ペンライトは動きの妨げになり良くない	・(b)のほうがいいような感じがする ・ペンライトで動きが小さくなる気がする	・(b)なら今ある動きや構成が生かせる ・4人の動きと群舞のコントラストを生かした構成	・2曲を聞き比べ意見を出し合う ・分担して作品を創っていく	・(b)アルゼンチンタンゴに決定する ・今までの動き構成を生かしながら作品を再構築 ・曲相を反映した全体構成 ・作品に深みを出す ・盛り上がり、見せ場をつくる ・これまでの動き、構成を生かす ・人数のコントラストをつくる	助言 1.表わしたいものが見えてこないに対してはまだ未確認
	再構築に取りかかってからは励ましの声をかける				・ペンライトは使用せず動きでルビーを表現	

導くために、作品創作の具体的かつ直接的な指針を示していく方法に指導転換した。実際の指導としては、現状での問題点を明らかにしたうえで、改良の手段を具体的に2通り、①テーマを変更する場合、②音楽を変更する場合、を示した。どちらの方法も根本的に作品を見直し、軌道修正していくものであるが、創作作品としての完成が急務とされている現時点においては最善の策であることを学生に告げ、進めていった。学生はその指導助言に基づきVTRを見ながら一つひとつ検討を重ね、②「音楽を変更する」を選んだ。この時の学生の葛藤が表１－４に示されている。

また、音楽も指導者が作品のテーマと現状を考え、２種類用意し提示した。その上で選択する観点を明確に示し、学生の決定に委ねたところ、(b) アルゼンチンタンゴに決定した。

音楽と最終的な作品の方向性が決まったところで課題を掲げ、作品の再構築に取りかかった。

この段階における指導助言は、現状の問題点とその解決の方法を具体的かつ明確に提示したもので、終始学生の選択や決定にそって行なわれていった。つまり助言は全て学生の「気づき」「調整」「交流」に反映され、その中から課題を見いだし、作品の再構築を施していることから、有効かつ適正な助言であ

表２－５　各段階における課題とその反応（発表の段階）

日付	指導助言	学生の活動・反応			課題の到達度	残された課題
		気づき	調整	交流		
9/7	助言 作品に入り込んで、しっかりと踊って 大きく堂々と自信をもって動いて	・間違えずに踊ることで精一杯 ・緊張の連続 ・頑張った ・終わった時の拍手に安心した	・場当たり、リハーサルで空間の位置取りを再確認	・全員で気持ちを一つにしようとした ・客席との交流ができた	（アンケートより） ・女性らしい情熱を感じた ・照明、衣装も好評だった ・動きが良かった ・宝石のようだった などより作品のテーマは表現できていたと思われる	・少数意見であり、アンケートからは判断できない ・踊り込み時間が不十分であった

ったと考えられる。

5）発表の段階

この段階における指導助言は激励と自信を持たせることのみとし、細かな指導は行なわなかった。また学生のほうは緊張と興奮で集中しない様子が「気づき」に現れているが、「調整」「交流」でお互いに助け合って取り組んでいる様子もうかがえた。そして表１－５の観客の感想からは、様々な「良かった点」が挙げられていたことから、作品のテーマやイメージが見る人に伝わったものと思われ、課題到達度も十分であったものと考えられる。

Ⅳまとめ

本事例は初期の段階で指導者が敢えて指導助言をせず、学生の自発性、独創性を期待して進めたものであった。しかし結果的には、テーマの見極めがあまく、音楽に委ねた作品づくりを推進したため、中盤以降に大きな転換を強いることとなった。

また、このことが仕上げの踊り込み不足に繋がり作品の完成度や学生の精神面に大きく影響を及ぼしたものと考えられる。

作品づくりの初期の段階における、指導者の指導助言如何によっては、学生独自の発想やアイデア、及び創作意欲の喪失にも繋がりかねない場合が生じると同時に、その逆のケースも考えられ、慎重を要するところである。筆者はこれまで、初期の段階における指導助言を敢えて行なわず進めて行く方法で、一応の成果をみてきたが、その是非については、ここで即断できない。しかし、今回の場合においては、初期の段階で適切な指導助言が為されていれば、創作にかなりの進展が見られ、完成をはやめたのではないかと考える。この初期の段階における指導助言のありかたについては、ケースバイケースとはいうものの、今後の課題として受けとめている。また、指導助言はVTRを用いながら行なうことで、助言内容に説得力が増し、実感として学生に伝わり、課題発見・解決にまで結びつくことが本事例の「まとめの段階」と「仕上げの段階」において顕著に示され、VTR視聴の有効性も再認識することができた。

残された課題として最後まで懸案となっていた「作品のテーマ」については、本事例に限らず創作ダンスのもつ問題点として、つねに作者や指導者に問いかけられるものであるが、それは鑑賞者との交流のなかに成果が問われ、一応の解決をみいだせるもの

といえよう。この観点から本作品は、発表時における観客の感想から、作品テーマがある種の感動をともなって伝えられ、共感が得られていたことが確認されており、作品のねらいは適切に表現されていたものと思われる。

ダンス創作の全過程において指導者の適宜な指導助言が、学生の思考や創造力に深く関わり、また作品の成果に大きく影響することを本事例研究で再認識した。

参考文献

1）文部省（2000年）学校体育実技指導資料第７集
体つくり運動－授業の考え方と進め方－

2）滝島哲雄（1999年）「新学習指導要領」をよむ
時事通信社